

令和7年4月24日
国立大学法人筑波大学

附属聴覚特別支援学校創立150周年—さらなる飛躍に向けて—

本学附属聴覚特別支援学校は、令和7年(2025年)5月22日に創立150周年を迎えます。

附属聴覚特別支援学校は、明治8年(1875年)5月22日、古川正雄、津田仙ら6名が楽善会を組織して盲者の教育を計画し、その後、山尾庸三が加わり、聾者の教育に発展させたところから始まります。明治天皇から御下賜金を賜り設立された、本校の前身である訓盲院において盲生だけでなく、聾生も学ぶことになりました。

本年、附属聴覚特別支援学校が創立150周年を迎えるにあたり、令和7年5月22日(木)に記念式典を挙行することといたしました。

【附属聴覚特別支援学校の概要】

附属聴覚特別支援学校は、聴覚障害のある幼児児童生徒が学ぶ、国内唯一の国立大学附属特別支援学校(聴覚障害)です。「進んで自分の能力を開発し、広い視野に立って社会の発展に寄与できる人間の育成」を教育目標としています。幼稚部・小学部・中学部・高等部普通科・高等部専攻科(造形芸術科・ビジネス情報科)を設置し、聴覚障害のある0歳児から2歳児の乳幼児とその保護者には、「きこえとことばの相談」に応じています。また、日本各地から高等部に進学する生徒のために寄宿舎を併設しています。

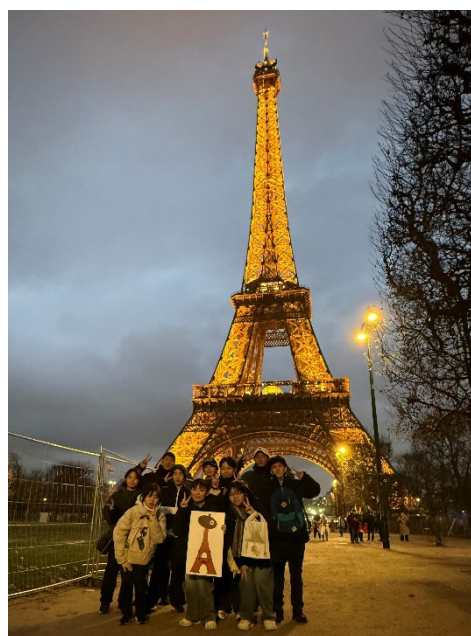
(学校所在地:千葉県市川市国府台2-2-1)

国際交流活動:グローバル人材育成を目的に、以下の学校とオンライン交流・作品交流や相互訪問を実施しています。

- 国立ソウルろう学校(平成20年度～)
- 国立パリろう学校(平成23年度～)
- 臺北市立啟聰学校(平成27年度～)
- 国立臺南大學附属啟聰學校(平成27年度～)

研修会の開催:現職教員研修の一環として、以下の研修会を開催しています。

- 聾教育実践研修会(関東地区の特別支援学校(聴覚障害)の教職員が対象の研修会)
- 聴覚障害早期教育公開研修会(教員のほか、医療・福祉の関係者が対象の研修会)
- 授業公開研修会(特別支援学級や通級による指導の教員等が対象の研修会)



令和6年12月パリ聾学校訪問生徒

【創立150周年記念式典開催の意義】

創立150周年記念式典開催は、これまでの附属聴覚特別支援学校の歴史を振り返り、これから本学及び附属聴覚特別支援学校が進む道を明確に示すうえでも大変重要な事業だと考えています。また、附属聴覚特別支援学校の教育を理解し、支援いただいている方々に、感謝を伝える舞台でもあります。

附属聴覚特別支援学校の前身、東京聾啞学校には「師範部」があり、教員養成に寄与してきた歴史があります。本学とともに歩んできた附属聴覚特別支援学校の直近50年の歴史を振り返りながら、今後の教育を展望する資料として、「創立150周年記念誌－東京教育大学から筑波大学へ、附属聾学校から附属聴覚特別支援学校へ50年－」を編集、発行し、全国の特別支援学校(聴覚障害)をはじめ、関係機関にお送りしたいと考えております。

こうした事業は、筑波大学附属聾学校同窓会、筑波大学附属聴覚特別支援学校後援会、筑波大学附属聴覚特別支援学校卒業生親の会「鴻友会」の支援のもとに行っております。

【創立150周年に係るその他の事業】

記念式典を挙げる1年前の令和6年5月22日には、附属聴覚特別支援学校webサイトに「創立150周年記念サイト」を開設し、150年の歩みから主な出来事を紹介しております。同じ記事は、本学附属学校教育局webサイトにも掲載されています。

創立150周年を記念した取組は、校内の各学部でも行われています。幼稚部では150本のろうそくを作り大きなケーキのイラストに飾り付けたり、150年前の学校について話し合う活動を行ったりしました。中学部では行事委員会が「カウントダウンカレンダー」を作成しました。専攻科造形芸術科は、幼児児童生徒全員に「150」を自由にデザインしてもらい、それらを背景にした記念横断幕を制作しました。



明治24年ころの校舎(東京都文京区)



創立150周年記念横断幕

【本件に関する問い合わせ先】

- ◆ 創立150周年式典に関すること
筑波大学附属聴覚特別支援学校
TEL: 047-371-4135 E-mail: kyoum-mail@deaf-s.tsukuba.ac.jp
- ◆ 取材・報道に関すること
筑波大学広報局報道担当
TEL: 029-853-2040 E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp